

「家がいいね」 第4号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2004.9.10

当院の午前中の外来時間の大半は、心療内科の相談で埋まっています。正直、こんなに受診希望される方が多いとは、当初は予想もしませんでした。在宅医療と重なる部分もあり、メンタルケアに關与できることは、大切なことだと思っています。しかし私の本業ではないと思っています。

心療内科とは、どういう科でしょうか？

最初に相談する方からも、「お宅の心療内科」はどんな科ですかとよく聞かれます。「こころと身体の双方に気をつけて治療する」科ですが、担当する医師の専門領域で、対応できる治療内容が異なってくるため、「心療内科」と言う言葉への混乱が生じるようです。

精神科医師が、心療内科を担当する場合は、精神科に受診するのに心理的な敷居が高いため、この科名で気楽に来院して欲しいという意図があります。すなわち、精神科医院・メンタルクリニックと同様の意味になります。

内科医が担当する場合はストレス関連の病気、例えば身体的な症状を引き起こす過敏性腸炎などが主です。私も内科医ですが、アルコール依存症に關与した経験で、身体だけではなく、精神科医に引き継ぐ間の精神疾患も取り扱っています。

受け入れている方の主な病気は？

開院以来の約550名の外来患者さんのカルテ病名を調べました。一人で幾つもの病名が重なっているのですが、「うつ」が最も多く、151名。次に不眠症が136名、不安神経症が98名、症状が多岐にわたる自律神経失調症が97名。

アルコール依存症は21名、統合失調症が8名です。摂食障害の7名は全て女性でした。今までの症状の重い方に関しては専門医に紹介しました。ストレスの關与する内科疾患は、高血圧53例、便秘19名、胃潰瘍9名、片頭痛8名、円形脱毛症3名でした。

診察で感じること

最も多い「うつ」では、仕事場や家族の中で、相手に迷惑を掛けたくないとの気疲れが限度を越えた方が多くみえます。心理的距離を上手にとれるように気を配ってお話ししますが、時には「抗うつ剤」を効果的に利用もします。



在宅訪問の中での悩み

も、多くはうつに似て気遣いの過剰から感情障害に至る事が多く、共にカウンセリング手法を使い、コミュニケーションを回復してもらっています。漠然とした不安を抱える人も多く、心身のパンクも伴い「こんな経験は自分だけだろうか、また襲って来たらどうしよう」と悩み受診されます。症状を持つ自分を嫌だ、あるいは否定しようとして、その結果、検査数値などにこだわっている事に気が付いてもらうため、同じくカウンセリングします。こういう自分でいいのだ、と思うことが出来れば回復への道筋が立ちます。

人は自分の物語を一生をかけて完成する

あまりにも早急に解答を求めるのは、こころと身体のリズムに沿わないことかも知れませんが、何時からか人間は、買いたい物が思い通りに出来るように、全てが（自分の身体も心も）自由に来ると思い込んでしまっているように見えます。繰り返しになりますけれど、症状は、私たちに今ある本当のこころや身体の状態を知らせているのでしょね。



ise home care clinic

いせ在宅医療クリニック

自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県度会郡御園村高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp
HP <http://tcp-ip.or.jp/~takuro>